

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		情報と社会 Information and Society				担当者所属 職名・氏名		情報学研究科 教授 石田 亨 国際高等教育院 教授 田島 敬史 学術情報メディアセンター 教授 美濃 導彦 情報学研究科 教授 吉川 正俊			
群	情報学科目群			分野(分類) (基礎)			使用言語		日本語		
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	月5		配当学年	主として1・2回生	対象学生	全学向		
【授業の概要・目的】											
「情報と社会」は、高等学校の教職免許「情報」を得るために必要な科目である。本講義では、情報技術と社会の接点について解説する。講義は4部に分かれている。第1部では、われわれの日々の社会生活の中での情報の取り扱いに関する諸問題について講義する。続いて第2部では、情報ネットワークのコミュニケーションが可能とする電子的な組織（チーム、マーケット、コミュニティ）の形成を講義する。第3部では第1部、第2部を踏まえて、情報メディアが今後の社会変革に与える影響を解説する。さらに、第4部では情報技術の発展と社会システムの変革の相互作用について解説する。											
【到達目標】											
社会における情報の利活用、情報ネットワークの現状と情報ネットワークを用いた社会インタラクション、情報メディアの社会への影響、情報基盤技術の発展に伴う社会システムの変革などに関する基礎的な知識が習得できていることを到達目標とする。											
【授業計画と内容】											
以下の項目（1）～（12）についてそれぞれ1～2週間で講述する。											
情報コンテンツと社会（田島敬史） （1）情報とは何か 情報は日々の社会生活の中でどのように重要なのか、情報の価値とは何か、情報の価値を考えることは社会のどんな場面で必要になるかについて講義する。 （2）情報のデータ化 大量の情報を流通させるためには情報をデータ化する必要がある。情報のデータ化にかかわる諸問題について述べる。 （3）情報の表現 現在の情報化社会では、情報を人に正確に伝える技術、与えられた情報を正確に読み取る技術、情報の信憑性判断などが重要である。これらの問題について考える。											
情報ネットワークと社会（石田亨） 情報ネットワークの現状を紹介し、情報ネットワークがどのようなインタラクションを可能とすることを講義する。 （4）協調：電子的なチームは地理的に離れた人々の共同作業を可能とし、世界規模の仮想企業を形成する。グループウェア、ワークフロー、オープンソース、コラボラトリ、eサイエンスなどの概念と、メディアとの関係を述べる。 （5）競争：電子的なマーケットは世界規模の競争市場を生み出し、ビジネスの仕組みを根底から変えていく。電子オークションを題材に、新しいメカニズムデザインの可能性を述べる。 （6）共生：電子的なコミュニティは自律的で緩やかな連携を生み出し、世界の調整機構の主役となりつつある。ネットワークコミュニティ、スモールワールド、社会関係資産（ソーシャルキャピタル）について述べる。											
-----情報と社会(2)へ続く↓↓↓-----											

情報と社会(2)

ル)などの概念を述べる。

情報メディアと社会(美濃導彦)

人間同士のコミュニケーションを支援する情報メディアが社会にどのような影響を与え、社会をどのように変えていく可能性があるのか、という問題を考察する。

(7) 情報メディアの概要：人間同士のコミュニケーションが、技術的にどのように支援されてきたかを振り返り、技術者が考える情報メディアの構造を明確にする。

(8) 教育の情報化：情報メディア技術を用いた、教育の現状とその効果、今後の発展方向について考える。

(9) 情報技術による生活支援：家庭の情報化について、現状・効果・今後の発展方向について考える。

情報技術と社会システム(吉川正俊)

情報の基盤技術をいくつか紹介し、その発展と社会システムの変革が相互にどのように関連しているかを考察する。

(10) 情報のデジタル化の原理を説明し、デジタル情報をめぐるコンテンツホルダ、メーカ、コンテンツプロバイダ、政府の間の関係について講述する。

(11) デジタル情報が改竄されておらず完全であることを証明するための基盤技術について説明し、その利用を保障する制度や社会システムでの応用について講述する。

(12) 政府など公共体の情報システムの要件について述べ、情報システムのオープン化について考察する。

[履修要件]

(1) 受講者数制限を行う予定(最大150名程度)である。

(2) 別途科目「情報と社会」(大島他)で単位を取得した場合には、本科目の単位の認定はできない。

(3) 工学部情報学科計算機科学コースの学生は、前期開講の「情報と社会」(石田、田島、美濃吉川)を履修すること。

[成績評価の方法・観点]

試験は行わず、各部の講義ごとにレポート提出があり、これによって、成績評価を行う。

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

(参考書)

美濃、西田編『情報メディア工学』(オーム社、1999)

遠藤『電子社会論』(実教出版、2000)

石田他『相互の理解、マルチメディア情報学、Vol. 12』(岩波書店、1999)

(関連URL)

<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/general-education-jp/information-and-society>(OCW講義ノート(美濃担当分)URL(2006年度))

[授業外学修(予習・復習)等]

復習のために、各部の講義ごとにレポート課題を出す。

情報と社会(3)へ続く↓↓↓

情報と社会(3)

【その他（オフィスアワー等）】

オフィスアワー：メールによる事前予約のこと．メールアドレスは以下の通り：

石田：ishida@i.kyoto-u.ac.jp

田島：tajima@i.kyoto-u.ac.jp

美濃：minoh@media.kyoto-u.ac.jp

吉川：yoshikawa@i.kyoto-u.ac.jp

【主要授業科目（学部・学科名）】